

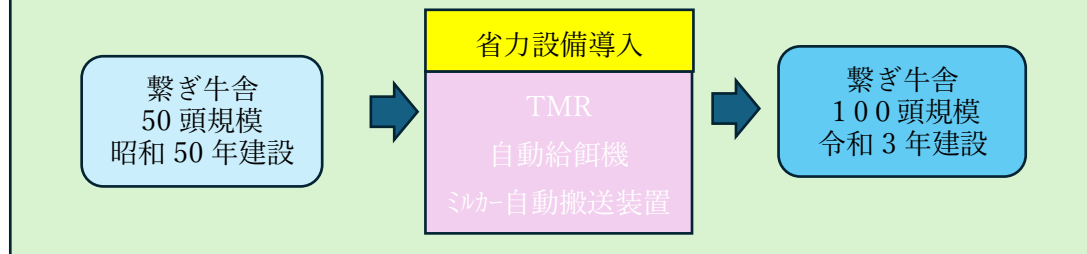
# 事例 1 「省力設備導入による繋ぎ 100 頭牛舎に規模拡大を実現」

草地林地総合整備型葛巻第二地区（平成 29～令和 3 年）

## ○事業を導入の背景

両親の高齢化で労力確保が困難だが、所得確保のため規模拡大したい。

→省力設備導入により、繋ぎ飼い方式で 100 頭の個体管理を実現



## ○事業の概要

- ・施設整備 牛舎 100 頭規模 1185 m<sup>2</sup> 木造 1 棟 繋ぎ、バンカーサイロ 277.83 m<sup>3</sup>
- ・設備機械 TMR ミキサー 23 m<sup>3</sup>（定置型）、自動給餌機 2 m<sup>3</sup>、ミルカー自動搬送機 6 台、バルククーラー、徐糞設備、牛床マット、トンネル換気システム等
- ・家畜排せつ物処理施設 固液分離機、貯留槽、ポンプ、攪拌機、堆肥舎等

事業費 280,803 千円 受益者負担 100,734 千円 経産牛 1 頭当たり負担額 1,007 千円



畜舎全景（前方）



畜舎全景（後方）



牛舎内の状況



ミルカー自動搬送機



TMR ミキサー（定置型）



自動給餌機

## ○事業実施効果

|          | 事業前     | 事業後     | 対比      |    |
|----------|---------|---------|---------|----|
| 経産牛頭数    | 43.6 頭  | 95.8 頭  | (219.7) | 増頭 |
| 年間出荷乳量   | 345.8 t | 856.9 t | (247.8) | 増加 |
| 経産牛当たり乳量 | 9155 kg | 9589 kg | (104.7) | 増加 |

ミルカー自動搬送機や自動給餌機の導入により省力化が実現し、両親の労力負担を増やすことなく増頭できました。増頭により生乳販売額が増加したことで所得が確保され、雇用労力も活用することが可能となり、定休日等の労働の環境も整えることができました。

生産者の声

近年の飼料高騰と同時に増頭に取り組んだので、自給飼料の確保の重要性を再認識しました。今後も事業等を活用して、更なる飼料基盤の拡大に取り組んでいきます。

問い合わせ先：公益社団法人 岩手県農業公社 畜産振興課